

1. 日 時 平成29年2月14日(火) 14:00～15:00

2. 開催場所 市役所本庁舎2階 第3委員会室

3. 出席委員名(敬称略)

| 役職                          | 氏名    | 出欠 |
|-----------------------------|-------|----|
| 会 長 (東北大学 教授)               | 永富 良一 | ○  |
| 副会長 (仙台大学 副学長)              | 仲野 隆士 | ○  |
| 委 員 (仙台市中学校体育連盟 会長)         | 伊藤 譲治 | ×  |
| 委 員 (仙台市スポーツ推進委員協議会 理事長)    | 大林 一信 | ○  |
| 委 員 (宮城教育大学 准教授)            | 神谷 拓  | ○  |
| 委 員 (仙台市レクリエーション協会 理事)      | 小林 彰  | ○  |
| 委 員 (仙台市体育協会 副理事長)          | 齋藤 明  | ○  |
| 委 員 (東北電力株式会社広報・地域交流部 副部長)  | 佐藤 信康 | ○  |
| 委 員 (仙台市小学校教育研究会体育研究部会常任委員) | 佐藤 裕子 | ×  |
| 委 員 (仙台市議会議員)               | 鈴木 勇治 | ○  |
| 委 員 (東北福祉大学特任 准教授)          | 鈴木 玲子 | ×  |
| 委 員 (東北学院大学 教授)             | 高橋 信二 | ○  |
| 委 員 (東北生活文化大学 教授)           | 土井 豊  | ○  |
| 委 員 (仙台市障害者スポーツ協会 専務理事)     | 中嶋嘉津子 | ×  |
| 委 員 (仙台市学区民体育振興会連合会副会長)     | 堀江新一郎 | ○  |
| 委 員 (NPO 法人キューオーエル理事長)      | 横山 英子 | ×  |
| 委 員 (仙台市スポーツ少年団本部長)         | 吉田 尚  | ×  |

4. 説明に出席した者の職・氏名

|             |       |
|-------------|-------|
| 文化観光局長      | 館 圭輔  |
| 文化スポーツ部長    | 岩間 文貴 |
| スポーツ振興課長    | 文屋 健  |
| スポーツ振興課企画係長 | 高橋昭太郎 |
| スポーツ振興課主任   | 早坂 正宏 |
| スポーツ振興課主事   | 星野 真弓 |

## 5. 会議の経過

(1) 開 会

(2) 会長挨拶

(事務局紹介：高橋係長)

(3) 議事の内容

議事進行役：永富会長

会議録署名委員の指名：土井委員

永富会長

(1) スポーツ推進計画（改訂版）最終案について

前回 1 月 27 日に開催いたしました審議会以降、局内、関係部局にも最終的な確認を行い、また、先日 2 月 8 日に開催いたしました検討委員会での協議を踏まえ調製したものが、今回、皆様にお配りした計画（最終案）となっております。

前回の審議会からの経過と主な修正点などについて、事務局より説明願います。

事務局

[ 資料 1、2 に沿って説明 ]

永富会長

ただいまの報告について、ご質問ご意見等はございませんか。

佐藤(信)委員

9 ページの「新たな媒体を活用し」とありますが、これは具体的に何を指すのでしょうか。

事務局

これは、これまでの市政だよりや市のホームページに加え、Facebook などの SNS を指しています。

佐藤(信)委員

「媒体」という言葉だけだと多少分かりにくいですし、これまでの手段に加えての取り組みであれば、「SNS など新たな媒体も」などと修正するのはいかがでしょうか。

事務局

修正の方向で検討したいと思います。

永富会長

10 ページについて、今回の目標数値を見直す要因を、少し具体的に明記した方が良いのではないのでしょうか。例えば、今回の市民意識調査において、スポーツを実施しない理由に「機会がない」「時間がない」といったことが多く挙げられたことを明記すれば、「情報発信の充実」や「多様なプログラムの提供」といった、今回見直した項目に結びつくので、改訂の主旨が市民に伝わりやすくなると思います。

仲野副会長

数値目標についてですが、仙台市の調査は 15 歳以上を対象に行い、その中で目標を掲げていますが、国は成人（20 歳以上）の実施率に対する目標を掲げるなど、本市の目標の対象とは少しずれています。

本市の現状を理解し、施策に結びつけるためにも、調査方法や分析の仕方について見直しの検討が必要かもしれません。

永富会長 次回の計画策定に向けた調査を実施する際は、これまでの結果と比較を行うための継続性という観点を持ちつつも、もう少し、要因分析をしやすいような形で実施できるよう調査方法の検討ができるといいと思います。

齋藤委員 高齢者のスポーツ実施率は、比較的高いと考えられます。高齢化も進んでいる中で、高齢者のスポーツ活動の現状を把握することも重要ですし、やはり年齢別の統計があると分かりやすいと思います。

事務局 今回の調査において、可能な範囲で、お示ししたいと思います。

永富会長 6ページ中、「身近なスポーツ活動の場の設定」の部分で、「働く人も気軽に…」と記載がありますが、身近な活動の場を求めているのは、働く人だけではないと思います。

事務局 適切な文言となるよう修正を検討したいと思います。

大林委員 6ページ中、「身近なスポーツ活動の場の設定」において、学校施設の開放事業について掲げられていますが、実際には利用できる団体は限られているのが現状です。  
学校や市民センターといった体育施設についても、もっと広く利用できる環境づくりが必要だと思います。

高橋委員 今回の数値目標のうち、小学校5年生の週3回以上の運動実施率が65%となっていますが、結果をみると男子はすでに74.1%と目標を達成しています。女子の実施率を上げる取り組みが必要だと思いますが、目標数値のところにも、何かしらの文言を追加するのはいかがでしょうか。

事務局 本計画では、あくまで男女全体での実施率の目標を掲げています。目標の設定や文言については教育委員会に確認しながら、可能な範囲で調整したいと思います。

堀江委員 成果を出すのにどういった取り組みが効果的なのか、非常に難しく感じます。ただ、その中でも比較的「みる」スポーツについては、成果が出やすいと思うので、そこに重点を置いて取り組むのも効果的かもしれません。

永富会長 「みる」スポーツの推進のためにも、情報の充実は欠かせません。しかし、「みる」だけでなく、「する」「ささえる」スポーツの推進においても情報は必要不可欠であり、情報提供を充実させることは、スポーツを「ひろげる」ことになると思います。  
「ひろがる」スポーツにおいても、情報の充実について記載することを検討していただきたいと思います。

**神谷委員** 5ページからの「学校体育との連携」についてですが、学校授業や部活動が充実するだけでなく、そこでの活動が継続され、卒業後にもつなげていくことが重要だと考えます。この計画においても、そういった内容がどこかに組み込めるとよいと思います。

**事務局** 教育委員会に確認しながら、文言の追加を検討したいと思います。

**土井委員** 先日、階段の上り下りを推奨する「脱メタボ」キャンペーンが宮城県庁で始められたことについてニュースになっていましたが、そういった例にあるように、身近なところに運動できる場はたくさんあると思います。小さなころから、そういった場を活用できるよう啓発していくことが大切だと思います。

**永富会長** この他、ご意見、ご質問等がありますでしょうか。

特にないようですので、以上で、本日の議事の一切を終了させていただき、事務局に進行を戻します。ご協力ありがとうございました。

(4) 閉 会